

戸田みらい基金 第8回活動報告会

新たな人材育成と職長の再教育
2019年の取り組みについて

(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

(一社) 職人育成塾

令和3年3月10日

1) 職人育成塾設立の背景・組織体制

<香川県の内装仕上げ工事会社の現状>

***各社が求人活動をして人も集まらない *やっと採用しても直ぐに辞めていく**

物件受注しても納期に収め切れない、職人不足が常態化—危機感、焦りを痛感

各社個別の対応には限界—関連企業で話し合いを行い自ら対策に乗り出す

香川の内装仕上工事会社9業種10社が協議、平成27年11月(一社)職人育成塾設立

***各社が求人活動をして人も集まらない *やっと採用しても直ぐに辞めていく**

<人が集まらない・すぐに辞める背景>

—中小企業の知名度の低さ（若者の安定志向、簡単に稼げる職種を希望）

—仕事内容の理解不足（どんな仕事か解らない、3Kイメージの強い建設関連を敬遠）

—全くの素人の若者への仕事の教え方が時代に合っていない。(ついていけない)

(現在の親方は背中を見て覚える式で教えて貰った事がない。昔流のやり方は通用しない)

(最近の若者に合った教え方を学ぶ事がこれからの親方の今後の課題—親方の再教育)

対策:実際に職長に未経験者を教える機会を作り新人職人育成の意識改革を目指す

2) (一社) 職人育成塾の訓練概要 (建設労働者緊急育成支援事業)

* 厚生労働省主催の建設労働者育成支援事業 (委託先—建設業振興基金)

- * 対象—離職者、新卒者、未就職卒業者等仕事に就いていない人
- * 内容—座学、実習等の訓練から就職支援までをパッケージとして行う
- * 今回、新たに30代～50代の職長の教育

* 職人育成塾の訓練概要

① 単一職種の専門教育でなく建設業未経験者(素人)の人に興味を持って貰い訓練を通じて自分に合った、やりたい職種を自ら決めその職種の会社を紹介就職を目指す

- * 軽天・ボード工事 * 塗装工事 * タイル工事 * 防水工事 * 耐火被覆・断熱工事
- * 設備工事 * 左官工事 * 大工工事 * 床・クロス工事 (9業種)

② 現場で活躍している親方・職長に未経験者を相手に講義させ、教えることの重要性を学ぶ

- * 期 間 約2か月間延べ49日間 (年に2回、6月～7月、 10月～11月)
- 前半期間 座学、基礎実習(道具等の使い方)、モックアップ(モデルルーム造り)
- 後半期間 より専門的実習(2～3業種選択して自分の適性を見極める)
- 最終期間 資格取得(5つの認定資格)、面談にて希望職種を決め、面接し内定就職

3) 座学・実習 (入塾後13日間)

- 各業種の仕事内容を知る (従来は講師はメーカー、商社が主だったが、**職長や若手の職人が実際に教えてみる**)
 - **業種毎の道具等の使い方をゼロから教え、体感させる**
- 各職種の専門工事の現役職人が講師をするのが従来の職業訓練と違う育成塾独特の教育法**



4) 専門工事实習 (より深く体験) (21日間)

- ① 塾生にはやって楽しい・面白いと感じさせ、より深く実習したい職種を選択
- ② 面談にて、塾生が自らやりたい専門工事を申告(希望職種の職長が面接)
- ③ ベテランの職人さんや若手の職長が手取り、足取り、懇切丁寧に実技指導する事を通じて理解をして貰い、職長も実際に教えることの大変さを感じて貰う。



軽天・ボードの採寸取りの説明



採寸後、現場貼り付け

5) 専門工事实習 (より深く体験) (21日間)



軽鉄・ボード下地の取り付け



ボードの切り付け



タイルのボンド付け



タイル貼り

6) 希望する職種企業の親方・職長と面接・内定、卒業・職人としてスタート

- * 専門工事实習で人間関係ができている親方・職長が面接、更なる責任感を感じてもらう。
- * 塾生は、慣れ親しんだ親方・職長がいる為現場に入りやすく、技術習得が得やすい。
- * 親方・職長も新人に弟子としてよりも生徒として丁寧な教えを自ら体得していく。



第六期卒業生 15名卒業（女性1名）



第七期卒業生 18名卒業（女性3名）

7) 職人育成塾を通じて感じた事

* 塾生には社会弱者（引きこもり、問題児、反社会行動経験者等）的な人が散見

* 塾生には通信高校の学生が多く、何れも不登校、引き籠りで義務教育も充分受けず高校でも問題児であったが資格取得して卒業後全員が希望の仕事に就職。

* 反社会的な行動をしてきた人でも、過去を反省一から出直そうと取り組む人や社会人となり何回も転職を繰り返し、自分の将来が見えなかった人達も研修を受けて自分の道を見つけ生き生きと働き出している。



親方・職長もいきなり現場に入った未経験者を教えることは難しい。

育成塾を通じて教えることの大変さ・難しさを肌で体感する。

また未経験者の建築業界に対しての「親方は怖い」という印象を払拭し、この親方の元ならやっていけるという自信を持たせる。





職長・親方が若年経験者・未経験者の視点まで降りて教育することが重要！

* 多くの職種の基本訓練で塾生自身が自らに合った職種を決めて生涯の仕事として取り組む決意を持たせて企業に送り出す職人育成塾独特の教育訓練は今後、増々重要になる。

* 教える側の人間が、教育の重要性を感じ、未経験者がこの業界でもやっていけるという自信をもたせる為にいかに教育するかを感じる事が重要。

8) 成果（親方・職長の声）

* 内装仕上げ業種9業種の多くの職人・親方が育成塾の訓練に参加する事で意識改革を体験



50代前半（軽鉄・ボード工）
経験年数30年

私が若い時は、当時の親方は、何も教えてくれず、見様見真似で仕事を覚えてきました。私もそれでやってきましたがこの育成塾で私の経験を話し、不慣れな教え方でしたが、実際に教えてみると、みんな、真面目に聞いて教えた通りのことやってくれました。当時、周りの同僚は、喧嘩して辞めていきましたが、寄り添って教えてやるとついてきてくれることが一番嬉しかったです。また、この機会を頂けたら、私に代わる未来の職長をみつけ、自分で育てたいと思います。



30代後半（耐火断熱工）経験年数
8年

今回、育成塾で初めて教えてみました。
なかなか、ヤッケを着てする仕事なので若い人は、敬遠しがちかなと思っていましたが、それは、自分が思っただけで実際、教えてみるとみんな真剣で驚きました。講師をしてみても驚いたことは、普段現場で教えていることと違い、こういう場で教えてみると積極的に聞いてくることです。現在、私は、育成塾の出身者を2人みえています。人間関係もできていたせいか、いい雰囲気の仕事ができています。雰囲気づくりも大切だということ学びました。

9) 令和3年度の職人育成塾の取組み

* 職人育成塾の事業の成果をご評価頂き、香川県の認定訓練校として承認。

* 厚生労働省の建設労働者育成事業で職人育成塾の存在と価値が確立。

< 4年間の事業を通じて職人育成塾だからこそ出来る社会貢献 >

* 求職者の中で異業種で働いていた人を含めて建設業への就職支援の重要性

① 何回も転職を繰り返して何をして良いか解らない人 — (取り敢えず就職) 迷走し転職を繰り返す

② 初めて就職を目指す学生で自分の道が定まっていない人、建設業以外で働き自分の適職が見つからない人

③ 生活にゆとりがない人 (生活保護、明日の食事のお金不足 — でも働きたい) — **訓練参加費用がゼロ**

育成塾の訓練を経て自分の適職を自ら選び就職できた人が喜びと生きがいを感じて人生をスタートさせる

< 令和3年度も引き続きこれまでの経験を活かして内装仕上の9業種の訓練を継続・進化させる >

① 建設労働者育成支援事業の継続(令和2年度～令和4年度の3年間)

② **教育する親方・職長の意識の向上、時代に合った教え方の理解と習得(新人の定着率のアップへ貢献)**

これまでに培った様々な経験と支えて頂いたネットワークを活用し、建設業未経験者を含め、仕事の楽しさを伝え、夢と希望を持って建設業で活躍して頂ける人材育成に取り組んでまいります。

また教育の重要性を現在の職長にも感じてもらい、次世代の職長を輩出していきたいと思っております。

10) 第1期から第8期までのまとめ (平成28年10月~令和2年12月)

<卒塾生 126名(女性25名)(年齢15才~54才)>

* 出身地 (県内95名、徳島3名、愛媛4名、関東7名、中部7名、近畿3名、中国7名)

(東京、神奈川、愛知、三重、静岡、岐阜、大阪、広島、兵庫、岡山、徳島、愛媛)

* 入塾経路 (ハローワーク63名 (県内HW52名、県外HW11名)) HW構成比率55%

(通信高校13名、理事関連16名、WEB16名、TV・新聞11名)

* 入塾者の前職 (建設業経験者10%15名程度、あとは異業種より)

飲食業 (うどん屋、ケーキ果物) 製造業 (食品、機械、加工業) 運送業 (倉庫配送、ドライバー)

サービス業 (商社、銀行、ビルサービス、IT関連) 医療介護 学生

<就 職 100名(女性13名)>

就職率85%

<職種別就職先>

軽天・ボード工事 24名, 床クロス工事17名, 左官工事9名, 木工工事5名、塗装工事 2名

耐火・断熱工事 7名, タイル工事 8名, 防水工事5名, 設備工事9名、その他14名

関係各位に心からお礼を申し上げます

戸田みらい基金様をはじめ、地元塩江地区、香川労働局、各地ハローワーク、香川県、高松市、国土交通省、厚生労働省、建設業振興基金、協賛メーカー、業界関係等、多くの皆様のご支援頂いたからこそ、多くの職人を送り出し、微力ながら社会のお役に立つ事が出来ました。

皆様の御支援なくしては(一社)職人育成塾の事業は成り立ちません。
深く心から感謝を申し上げ、尚一層の努力を決意致します。

今後更なるご支援頂きます様お願い申し上げます。